

議題

神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進計画中間評価報告書（案）について

<事務局より参考資料 3 について説明>

（荒川部会長）

条例が改正されることに伴って、計画も一部改定が必要となります。4 月には、協議会と部会が併催される予定ということですが、何か質問等ありますでしょうか。

それでは、中間評価結果報告書についての議題に入りたいと思います。

<事務局より資料 2、資料 1（第 1 章から第 3 章 1 まで）について説明>

（鴨志田副部会長）

5 ページの 3（1）「予測値達成状況」の評価区分についてですが、この評価方法では、（直近値が予測値を達成した項目）の数に注目しています。2 つ、（直近値が予測値に近づいているが未達成）2 つで評価区分は「B」となります。しかし、2 つと×（直近値が基準値より悪化）が 2 つでも、同じく「B」となってしまふことには、少し違和感がありました。

（事務局：健康増進課）

「かながわ健康プラン 2 1」の評価形式と同様にしています。

（鴨志田副部会長）

この評価形式で決まっているということですね。

（事務局：健康増進課）

はい、この形式にしています。

（鈴木委員）

10 ページと 11 ページに出てくる「噛みんぐ 3 0」の「みんぐ」はカタカナではないでしょうか。

（事務局：健康増進課）

訂正します。

（鴨志田副部会長）

用語解説に掲載している用語については、本文中最初の記載のものにしか「アスタリスク」は付けられないでしょうか。

（事務局：健康増進課）

繰り返し記載がある用語の場合、全てにアスタリスクを付けると見にくくなってしまうと考えたため、初出の 1 つのみに付けています。

（鶴本委員）

5 ページの 3（1）「予測値達成状況」の 4 つの評価区分と（4）総合分析の関係性がよく分かりません。「予測値達成状況」の A から D の 4 段階の評価だけで、達成状況が分かりますので、総合分析は、必要なのではないでしょうか。例えば、「A」の評価であれば、「順調に進捗している」と分かりますし、「B」の評価であ

れば、「比較的順調に進捗している」と分かると思います。

（事務局：健康増進課）

現行計画の中で、関係者の役割を記載しており、それに即してどんな取組みをしているのか毎年照会を行い、実施状況を把握しています。そのため、数値の評価だけでなく、取組み状況にも焦点を当て、併せて評価したいと考えています。

（鶴本委員）

そのような違いがあるのですね。それから、11ページには、5ページで既に説明している「予測値達成状況の評価」が記載されていますが、念押しのための記載ということでしょうか。

（事務局：健康増進課）

はい、そうです。

（鴨志田副部長）

5ページの(4)の総合分析で示した結果はどこにあるのでしょうか。

（事務局：健康増進課）

10ページの(5)総合分析に、乳幼児期の歯科保健に関する取組みは、「比較的順調に進んでいます」と記載しています。

（鴨志田副部長）

10ページの総合分析に記載するのならば、5ページのローマ数字(, ,)は、頭に付けないのでしょうか。

（荒川部会長）

5ページの表から、ローマ数字自体を抜いてしまうことはできないのでしょうか。

（事務局：健康増進課）

「かながわ健康プラン21」との整合性を図りつつ、検討します。

（荒川部会長）

もしも、抜くことができないのであれば、10ページの「比較的順調に進んでいます」の後ろに括弧書きでローマ数字を付けるのがよいと思います。

7ページの(2)イは、「3歳児でむし歯のある者のうち重症の者の割合の減少」となっています。重症の意味は「B型」と「C型」ということなので、「重症型」と表記した方がよいと思います。「重症」というと、「C3」や「C4」などのむし歯の進行具合をイメージすると思います。他に、「重症型むし歯」という用語もありますので、ここでは「重症型」と表記した方がよいのではないのでしょうか。

<事務局より資料1(第3章 2及び3)について説明>

（鴨志田副部長）

12ページの(2)イでは、「評価することは不可能です」と記載されています。しかし、5ページの2における「-」についての説明では、「直近値が把握できない」と記載されています。この両者の表現の違いに少し違和感があります。

(荒川部会長)

「評価することは不可能です」よりも「評価困難です」とするほうが、より柔らかい表現ではないでしょうか。「-」の評価とした部分は、全て「評価困難です」と記載するようにお願いします。

13ページの(3)市町村における主な取組みの「歯科健診」の漢字表記が気になりました。1つ目は、就学時健康診断(歯科健診)と記載されていて、その次も健康診断(歯科健診)と表記されています。この健康診断は、定期と臨時のことかと思います。しかし、4つ目の「歯科検診」は「検」での表記となっています。なぜ4つ目のみ、「健」ではなく「検」での表記なのでしょう。

(鶴本委員)

「歯科健診」は、リーベル&クラークが提唱した健康増進にあたるような解釈をしています。学校の健康診断というのは、どちらかという、二次予防的な意味があるので、ここは、「歯科健診」の表記は省略すべきだと思います。

(荒川部会長)

4つ目の「歯科検診」の表記はどうでしょうか。

(鴨志田副部会長)

4つ目の「検診」の「検」の漢字は、意図的に変えているのでしょうか。

(事務局：健康増進課)

はい。

(鶴本委員)

もしかしたら、ここは「歯科健康診断」のことではないでしょうか。意味合い的には、「検診」なのかもしれませんが、ここでは全て「健診」で統一したほうがよいと思います。

(鴨志田副部会長)

13ページの神奈川県歯科衛生士会の取組みでは、高等学校歯科「検診」補助となっています。

(事務局：健康増進課)

各関係団体の取組み状況について照会を行い、回答のままを当課で転記しています。県歯科衛生士会から頂いた回答が「歯科検診」の表記だったのだと思います。

(鈴木委員)

はい、本事業で高校から頂いている依頼文には、「検診」の補助と記載してありましたので、そのように回答しています。

(鶴本委員)

学校保健では、「健康診断」が正式名称です。

(荒川部会長)

確認して下さい。

(鴨志田副部会長)

同じことに関してですが、18ページ(3)ウでは、「検診」と「健診」が入り混じっています。

(荒川部会長)

恐らく、事業名がこのような記載になっているのではないのでしょうか。

(事務局)

県歯科医師会に、事業名を確認してみます。

(荒川部会長)

これらが事業名でしたら、固有名詞なので、これで表記するしかないと思います。

(鶴本委員)

結果的に、報告書では13ページの学校の箇所の(歯科検診)さえ省略すれば、それで解決ということになると思います。

(上重委員)

「40歳代における進行した歯周病を有する者の割合の減少」については、「評価基準が異なるため、評価することは不可能です」とありますが、CPIの判定基準が変わったからということでしょうか。

(事務局：健康増進課)

そうです。

(上重委員)

「評価基準が異なる」としてしまうと、何か齟齬が出てきてしまうのではないかと思います。今後、国の指標から市町の指標も全て、新しいマニュアルに沿って切り替わっていくと思われるので、全て評価不能になってしまうのではないかと思います。落とすどころとして、このような記載にしたのだと思いますが、そこまで診断基準が異なるのかなと、少し疑問が残ります。

(鶴本委員)

これは、新しいCPIで歯周ポケットのコード1・2は、昔のCPIの判定基準のコード3・4と同じだと思います。県では、両者を比較することは、できないということにしたのですよね。

(事務局：健康増進課)

そうです。

(鶴本委員)

国の歯科疾患実態調査は、新しいCPIの歯周ポケットのコード1・2を、昔のコード3・4と比較しているようですね。

(上重委員)

比較しても、あまり齟齬はないかと思います。

<事務局より資料1(第3章 4及び5)について説明>

(鶴本委員)

「予測値を下回りました」という表現が、とても混乱します。数字的に増加することを目標とする項目と、減少することを目標とする項目があるので、後者の場合、「下回りました」とすると、達成しているような表現に感じます。「予測値を達成しませんでした」と、統一したほうがよいのではないのでしょうか。

(事務局：健康増進課)

達成したか、しなかったかで整理をして、訂正します。

(鴨志田副部長)

「高齢期における歯科保健」の総合分析における予測値達成状況の評価は「C」で、「比較的順調に進んでいます」という評価としていますが、一方で、予測値達成状況の評価が「B」の「障害児者及び要介護者における歯科保健」も同じく「比較的順調に進んでいます」という評価には、違和感があります。

(荒川部会長)

予測値達成状況の評価だけでなく、取組み状況などを併せて総合的に見ているということですね。

(事務局：健康増進課)

はい、そうです。

(鶴本委員)

そのような評価にした理由が必要だと思います。

(鴨志田副部長)

「進捗が遅れています」という評価があるのは、県として良くないということでしょうか。

(事務局：健康増進課)

県や市町村、関係団体も含めて、これだけ様々な取組みを実施しているにも関わらず、「進捗が遅れています」と評価することで、県民の方に、何も成果が出ていないのではないかと不安に思わせてしまうことになりかねないとも考えています。そのため、本報告書では、数値だけでなく取組み状況も含めて総合的に評価していきたいと考えています。

(荒川部会長)

「60歳で24本以上の自分の歯を有する者の割合」については、前回の部会でも話し合いはしましたが、少々不思議な結果ではあります。

(鶴本委員)

年齢分布も関係ないとしたら、仕方ないと思います。

(鴨志田副部長)

24ページ(5)総合分析、5つ目の「窒息による死亡件数は不慮の事故件数の約19%を占めています。」ということは、初めて知りました。年間の不慮の事故件数の19%は窒息だということでしょうか。

(事務局：健康増進課)

はい。

(鴨志田副部長)

窒息のうち、食品によるものは45%ぐらいということは知っていました。窒息が口腔機能の低下だということが分かるのですか。溺死はどうなるのですか。

(事務局：健康増進課)

溺死は、窒息とはまた別に分類があります。現行計画の28ページで、不慮の事故は凡例のように分類されています。

(鶴本委員)

国の人口動態統計でも、このような分類で決まっていたと思います。

(事務局：健康増進課)

国で、不慮の事故におけるそれぞれの定義が決まっていて、その中で分類されています。

(荒川部会長)

26ページ、(1)の1行目、Quality Of Life の「Of」のOは小文字だったと思います。次に、「生活の質の向上と自立を支える歯と口腔の健康づくりを推進します。」で、「口腔」にアスタリスクが付いています。「口腔」にやたら付いていると思います。1番最初以外にも付いているかと思います。該当用語を検索して見直して下さい。

(鶴本委員)

24ページの総合分析の《まとめ》についてです。「達成できた項目は少ないけれども、県、市町村及び関係団体の取組みにより、総合評価は比較的順調に進んでいるとしました。」というような理由を記載したほうがよいのではないのでしょうか。

(事務局：健康増進課)

検討します。

(鴨志田副部会長)

40ページの「オーラルフレイル」の用語解説について、内容はこれでよいのでしょうか。日本歯科医師会の定義と同じですか。

(事務局：健康増進課)

日本歯科医師会の定義とは異なります。今、改正条例に、オーラルフレイルについての神奈川県における説明を記載する調整をしていますので、最終的にそれと合わせます。

(鶴本委員)

定義がいくつかあってまとめると、このような形となるということですね。

(事務局：健康増進課)

正式な定義が定まっていないので、有識者からは神奈川県として作ってもよいのではないかとのご意見を頂いています。

(鴨志田副部会長)

発音の部分は、「滑舌の低下」でないのでしょうか。

(事務局：健康増進課)

他の用語も同じですが、歯科用語辞典等で調べますと、県民の方には分かりにくい表現のものが多いです。したがって、滑舌の低下は、「発音がはっきりしない」としました。また、オーラルフレイルに係るポスターやDVDを作らせて頂いていますが、その中でも「滑舌の低下」と言っても分かりにくいいため、「発音がはっきりしない」という表現にし、これについては有識者に確認を頂いています。

(荒川部会長)

滑舌 = 発音ではないと思う気もしますので、ちょっと引っかけります。

(事務局：健康増進課)

滑舌と記載したほうがよいのかどうか、再度有識者へ相談します。

(鶴本委員)

滑舌はフレイルと同様に筋肉の機能のことを言っていると思います。発音というと、もっと総合的に歯並びや、口腔機能、呼吸器系もあるだろうし、あえて「滑舌」としているのかもしれませんが。

(事務局：健康増進課)

県民の方に分かりやすく説明するには、「発音がはっきりしない」がよいのではないかと考えています。「噛めないものの増加」と表記されている部分も「噛めない食品の増加」と分かり易いようにしています。

<事務局より資料1(第4章及び参考資料)について説明>

(荒川部会長)

32ページの(2)歯科保健医療情報の収集及び発信の3行目ですが、「情報の収集及び発信できるよう」ではなく、「情報を収集し、発信できるよう」ではないかと思えます。

(事務局)

訂正します。

(荒川部会長)

全体的に見直す必要のある課題も出てきましたがよろしいでしょうか。
後で気付いた点については、いつまでに、お伝えすればよいでしょうか。

(事務局：健康増進課)

2月末を目途に事務局へ知らせていただければと思います。

(荒川部会長)

では、後で気付いたことがあれば、事務局へお伝え下さい。
少し気になるのが、37ページからの参考資料で、「%」が半角で表記されていることについてです。論文でも全角で記載すると決まっているので、とても違和感があります。最後の参考資料の部分のみ半角になってしまっていますので、気になりました。訂正できるのでしょうか。

(事務局：健康増進課)

はい、訂正します。

(鈴木委員)

用語解説内の「8020運動」についてです。「たいてい」という言葉を使っていますが、具体性がないので用語解説では、あまり使わないと思います。「80歳になっても歯を20本以上保とう」という取組みに関する内容のみの記載でよいのではないのでしょうか。

(事務局：健康増進課)

そのように対応します。

(荒川部会長)

「はちまるにいまる」のルビは、既に「8020運動推進員」の解説で表記しているため、不要ではないでしょうか。

(事務局：健康増進課)
削除します。

(荒川部会長)
他にはいかがでしょうか。では、後で気が付いた部分があれば、連絡頂くということで、事務局にお返ししたいと思います。

(事務局：健康増進課)
荒川部会長、どうもありがとうございました。これで、平成29年度神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進協議会第2回計画評価部会を閉会とします。本日頂いたご意見を報告書へ反映させ、ブラッシュアップしてまいります。
今後の予定ですが、4月末に、「平成30年度第1回協議会」と「第1回計画策定部会」を併催させて頂き、中間評価報告書について、御報告する予定としております。よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

以上